「夜店」を５年ぶりに復活 つながりを生む場へ

富岡市商店街サービス事業（協）

８月24日、富岡市・お富ちゃん広場において、コロナ禍以来５年ぶりに夜店を開催した。焼きそばやチョコバナナの販売の他、ビッグパチンコやおみくじなど、子ども達が楽しめる屋台が並んだ。

住民が運営でも参加でも自由に関われる場としていきたいとの思いから、今回初めて一般の方にも運営協力を募った。小中高生から高齢者まで、幅広い年代から希望者が集まり、会場を彩る竹灯籠の作成や、当日の屋台運営など、様々な形で協力を得た。

イベント委員長を務める入山寛之副理事長は、「来年以降も、人と人とのつながりを創出できる場となるように続けていきたい」と語った。

延べ100人以上が携わった竹灯籠は80を超える

ゲームを楽しむ子どもと店舗を運営する高校生

桐生服飾工芸展を開催

桐生織物（協）

９月７・８日、桐生市・有鄰館において、第33回桐生服飾工芸展を開催し、同組合の服飾工芸部会に所属する６社が出展した。

織物の産地として名高い桐生の織物の魅力を知ってもらおうと年に２回開いており、今回はその２回目。伝統的な技法で作ったゆかたや作務衣、ネクタイ、ストール、インテリア小物等の製品を展示、販売した。来場者は、各ブースに常駐していた生産者からの説明を聞きながら、多彩な製品の見学と買い物を楽しんだ。

ゆかたやストールが会場を彩った

災害時に宿泊施設に求められる役割を考える

伊香保温泉旅館（協）

９月10日、渋川市・伊香保温泉ビジターセンターにおいて、災害時における宿泊施設の対応に関する講習会を開催した。講師は㈱イオタ・防災アドバイザーの野呂順正氏。

訓練の必要性を説く野呂氏

野呂氏は、災害時、宿泊施設に求められる役割は、遠方災害発生時の避難者の受け入れと、自社地域が被災した際の近隣地域の避難者の受け入れの２点があることを説明。

特に、近隣地域の避難者を受け入れる場合には、自社の施設や従業員も被災している状況が考えられ、その中で避難所として機能させるためには、平時からの訓練が必要であると説いた。

大災害等の発生時に、平静を保とうとするのはなかなか難しいため、訓練等を通して普段から緊急避難時の心構えをしておき、速やかな行動を心掛けてほしいと語った。

避難所を開設するワークショップを行う参加者

Local Area News

第１回しもにた青空市に協賛 町のファンづくりを目指す

下仁田町商業（協）

９月22日、下仁田町・下仁田こんにゃく手作り体験道場と敷地内の広場において、下仁田町商工会の主催で、しもにた青空市が開催され、組合から一部店舗が出店したほか、駐車場整理など運営にも協力した。

出店者や来訪者に、この市をきっかけに町に魅力や愛着を感じてもらい、再来訪につなげたいという考えから、初めて町内外を問わず参加を呼び掛けたところ、計45店舗が軽トラやキッチンカー、テントなど様々な形で出店した。

来場者は飲食を楽しみながら自由に店を見て回り、終了時刻を待たずに完売した人気の店舗も見られた。また、商工会青年部が出店した射的には子どもたちが列を作り、道場の建物内に設けられたワークショップコーナーでは、年齢を問わず楽しむ様子が見られた。

軽トラやテントなど、様々な形で店舗が並んだ

様々なワークショップを楽しむ来場者

就業規則の見直しを検討

群馬県食肉事業（協）連合会

９月26日、前橋市・連合会事務所において、働き方改革や将来想定される労務問題に対応するため、社会保険労務士・高橋貞範氏の指導を受け、就業規則の見直しを行った。本会の制度改正等の課題解決環境整備事業を活用して実施したもの。

高橋氏は、現行規則の内容を踏まえ、労働基準法の原則や最近の改正内容を説明した上で、働き方改革の実践に向けて助言を行った。

役職員を交えて検討

群馬発酵ご飯フェスティバルを開催

群馬県醤油味噌工業（協）

10月１日、前橋市・道の駅まえばし赤城で、醤油の日に合わせ、群馬発酵ごはんフェスを開催した。群馬県産の発酵調味料を学び、味わっていただくことを目的とし、醤油と味噌を広くＰＲすべく組合員６社と、昨年度組合と共同でプリンを開発した勢多農林高校が出店した。

多くの参加者が試食販売会に訪れ、試飲、試食や買い物を楽しんだ

また、正田醤油㈱発酵研究所所長の森山裕史氏が出前授業を行い、発酵技術や醤油の製造に関する講座を開催した。約20名の参加者が説明に耳を傾け、醤油に関するクイズを通して、日々の食卓に欠かせない発酵調味料の魅力を学んだ。

醤油の製造方法について説明する森山氏